

沖縄の観光

担当教員 上江洲 薫

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

観光は基本的に人と場所に関する現象だと言われている。つまり、観光はレジャーやレクリエーションを主目的に旅行した祭の、一時的滞在や移動に発生する現象ととらえることができる。本講義の目的は、ゲストとしては楽しい観光であるが、ホスト側の視点に立ち、受け入れ側の問題や課題を認識し、その対応策を考える能力を身につけることである。したがって、本講義では、観光客の受け入れ側である観光地で展開される自然的・社会的・経済的な現象を総合的に検討し、観光地特有の問題・課題や観光地づくりについて概説する。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 沖縄観光の展開と観光客特性
3. 観光資源（自然・人文資源、世界遺産、課題と対応）
4. 観光産業①宿泊施設（ホテル、民宿など）
5. 観光産業②運輸業（航空業、レンタカー、観光バス、クルーズなど）
6. 外部講師による講話を予定：ホテル業界か航空業界
7. 観光産業③ダイビングサービス（事業者特性、海面利用問題）
8. 観光産業④旅行業
9. 観光産業⑤テーマパーク、エステ・スパ
10. 観光による影響①経済的影響
11. 観光による影響②社会・文化的影響、自然的影響
12. 持続可能な観光①エコツーリズム
13. 持続可能な観光②グリーンツーリズム、ウェルネス、健康保養観光
14. 観光政策①沖縄観光振興計画と振興事業（リゾートウェディングなど）
15. 観光政策②開発規制を目的とした条例と要綱
16. 試験

【履修上の注意事項】

本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。観光行政や地域振興などに興味がある学生を広く歓迎する。途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回から出席を取る。

【評価方法】

成績評価は出席（30点）や試験（40点）、講義内容に関する感想や作業物の提出および講義への参加姿勢（30点）で判断する。

【テキスト】

特に指定はない。毎回レジュメを配布する（ファイルに綴じて毎回持参して下さい）。

【参考文献】

九州経済調査協会編（2003）『新しい観光・集客戦略 2003年版 九州経済白書』

沖縄の経済

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄経済の現状を理解し、自立へ向けた課題と展望を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と講義の進め方などを説明する。
2	沖縄の経済・社会状況① 経済状況の都道府県比較
3	沖縄の経済・社会状況② 社会状況の都道府県比較
4	米軍基地と沖縄経済①
5	米軍基地と沖縄経済②
6	米軍基地と沖縄経済③
7	沖縄振興策①
8	沖縄振興策②
9	沖縄振興策③
10	財政依存型経済の現状
11	県・市町村の財政状況
12	地域経済の自立 域際収支の観点から
13	沖縄観光の現状
14	沖縄観光の課題と展望
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

沖縄国際大学公開講座委員会編『沖縄経済の課題と展望』那覇出版社、1998年。
大城郁寛『図説 沖縄の経済』東洋企画、2007年。

沖縄の芸能

担当教員 杉本 信夫

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の歴史的、地理的位置を視点にして、グローバルに関係諸民族の芸能との比較、とくにヤマト（日本）の芸能文化と沖縄のその質的差異について、例証をあげながら確認していく。芸能とは何か、そして今日の沖縄芸能の隆盛に至るまでの、その原点となるものをおさえ、沖縄の芸能の将来について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人類と芸能、芸能の発生についての類推的考察。
2	とくに沖縄の場合の神概念と芸能の関係。神と女性。
3	沖縄の地理的位置、風土人情、歴史的な社会関係における芸能の特徴。
4	日本の固有芸能文化と、進んだ大陸文化の摂取の特徴。雅楽寮設置。
5	奈良「大仏開眼式」をめぐる、国際的大陸文化の開花と平安時代の芸能の日本化の時代
6	第一期琉球文化隆盛。琉球国の自立的な海外との交易と、文化交流。
7	日本のキリシタン文化の流入と禁制、徳川時代の緻密な階級制度。
8	孔子の「礼楽思想」と儒教の影響。琉球と日本の受け入れの違い。
9	武士階級の能楽への発展、江戸時代の庶民の文化芸能。
10	第二期琉球文化隆盛。薩摩の琉球侵略後の日本文化の影響。中国との朝貢関係と薩摩、踊り奉行設置
11	「琉球処分」沖縄県設置後の沖縄の芸能。庶民と王朝文化との関係。
12	方言禁止、日本の軍国主義による海外侵略の時代に「沖縄歌劇」が生まれる。
13	沖縄戦、米軍占領下における芸能文化。移民も含めて、沖縄文化の国際性。
14	沖縄の日本「復帰」後の芸能の様相。とくに、「君が代」問題を前後して。
15	ウムイ、おもろ、琉球古典芸能、沖縄民謡、宮古、八重山の芸能の特徴。将来の沖縄芸能の発展性。
16	

【履修上の注意事項】

「沖縄の歴史、民俗」に関する講義を受けた後に受講すること。講義中は絶対私語はしないことを原則とする。

【評価方法】

レポートによる。テーマ「沖縄とヤマトの芸能文化の質的違いについて、例証をあげて述べよ」「沖縄の芸能の将来性について」「この講義で学んだこと」

【テキスト】

テキストは特になし、必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

沖縄の言語

担当教員 仲原 穰

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄では現在でも老年層を中心に沖縄独特のことばが使われている。この言語（「琉球語」または「琉球方言」）は奄美諸島から八重山諸島まで点在する島々で使用されている。しかし、若年層は老年層が使う方言が理解できず、中年層も方言のみで会話するのはほぼ困難である。このため、琉球語（琉球方言）は「消滅の危機に瀕する言語」とされている（2009年2月、国連教育科学文化機関《ユネスコ》にも消滅の危機にある言語と認定された）。このままでは近い将来、伝統的な方言は消滅してしまう。世界の言語のなかで、消滅の危機に瀕していた言語が学校教育による言語習得でみごとに復活した例がある。本来、言語は家庭や地域社会で実践的に身につけ

【授業の展開計画】

講義では、①老年層が話すことばを理解できるようになること（聞き取る力をつける）、②老年層と簡単な会話をおこなえることを目標とし、琉球諸方言の音声や語法の知識を身につける。ただし、半期で基礎を学ぶため、首里方言を中心に講義を進める。講義ではテキストの内容のほかに琉球諸方言と日本語、現代日本語諸方言との関わり、わらべうた、ことわざ等も取り扱う。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要／日本祖語と琉球語／琉球語と日本語
2	ハ行音の歴史／琉球諸方言の多様性／琉球語の区画／挨拶ことば
3	三母音の原則／連母音の融合
4	子音の破擦音化／基礎の確認
5	助詞「～が」／指示語／1拍語の対応
6	サ形容詞の活用①／動詞の終止形
7	動詞の活用①／ラ行動詞の禁止形／語中・語尾の「り」
8	ア行（イ・ウ）とヤ行（イイ）・ワ行（ウウ）の区別／助詞「は」
9	動詞の活用②／係り結び／助詞「～を」
10	基礎の確認②／助詞「～に」
11	動詞の活用③／疑問文／awaɪʔaa
12	普通体と丁寧体／形容詞の丁寧体／
13	動詞の活用④／「～して」の表現／
14	動詞の活用⑤／サ形容詞の活用②／
15	ナ形容詞／助詞「～で」
16	期末試験

【履修上の注意事項】

この講義は半期で沖縄の言語を学ぶ（語学は通常週2回）。そのため、1回の講義で多くのことを学び、覚えなくてはならない。1回でも欠席すると講義について行けなくなるので、やむを得ない事情以外は出来る限り休まないこと（欠席する際は、欠席届だけでなく添付書類を添えることが望ましい）。方言の講義だから簡単だろう、と思っていると単位は取れない。外国語を学ぶつもりでいてほしい。講義を受ける前に前週で学んだテキストやプリントの箇所に通しておくと格段に理解が深まる。※補助プリントは、つづって毎時間持参すること。

【評価方法】

評価は学期末に行う試験の得点と授業への取り組みをもとに、総合的に判断する。

【テキスト】

『CD付改訂版 沖縄語の入門 一たのしいウチナーグチー』（白水社）西岡敏・仲原穰〔著〕、中島由美・伊狩典子〔協力〕 ※CD音声付きテキストなのでなるべく手に入れること。

【参考文献】

『沖縄の言葉と歴史』外間守善著（中公文庫）／『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』内間直仁・野原三義編著（研究社）／『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省印刷局〔大蔵省印刷局〕）※上記以外の参考文献については、講義の際に紹介する。

沖縄の工芸

担当教員 又吉 光邦

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の工芸の中で、沖縄県の立派な産業である伝統的染織物産業の現状を理解し、今後の沖縄の染織産業として求められるものを学ぶことをねらいとしている。そのため、まず琉球王朝期の王族・士族のみが着用を許された紅型衣装について歴史的背景を学び、ならびにデザイン手法の確認を行う。その際、定説の誤りなどについて触れ、科学的視点を持った研究の大切さを学んでもらう。次に、昭和60年代の記録映像を見てもらう。最後に現在の伝統（染織）産業の実態について統計資料などをもとに理解を深めると共に若者の産業としての可能性を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄における布の歴史・紅型について
2	神女の守護する島Ⅰ（琉球開闢、オナリ信仰、巫女体系） 久米島君南風の画像・動画
3	神女の守護する島Ⅱ（琉球開闢、オナリ信仰、巫女体系） ノロ衣装
4	神女の衣装 中世（13～16世紀）・近世（17～19世紀）
5	「おもろさうし」に描かれた神衣・・・「ゑがきみはね」
6	礼服の制定・・・「袞衣」と「阿志阿計古毛子」／久米島の「阿志阿計古毛子」
7	唐尺・風水尺からみた紅型、紅型型紙
8	紅型の型紙・型紙のサイズ・型紙の紙
9	琉球紅型型紙のコンピュータ・グラフィックス援用による幾何学的考察
10	クライス・ジェオメトリー理論（中世のヨーロッパ建造物・彫刻・絵画）
11	コンピュータ・グラフィックスを用いた紅型衣装の構図解析（衣装サイズ・文様配置）
12	紅型・琉球藍・芭蕉布のビデオ鑑賞
13	統計データに見る沖縄県の伝統衣類産業Ⅰ 紅型/芭蕉布/宮古上布・久米島紬・琉球絣・石垣織物
14	統計データに見る沖縄県の伝統衣類産業Ⅱ 紅型/芭蕉布/宮古上布・久米島紬・琉球絣・石垣織物
15	まとめ（ディスカッション形式）
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の効果を考えて、講義順序を入れ替える場合があります。おしゃべりには、厳しく対処します。

【評価方法】

中間レポート、期末テスト。

【テキスト】

『紅型に秘された祈り ～今、明かされる紅型の秘密～』、佐久本邦華・又吉光邦、沖縄教販。

【参考文献】

『琉球服装史』（嘉数律子）。鎌倉芳太郎の著作物。「紅型型紙の幾何学的考察」「沖縄県の伝統的衣類産業の一考察」「古琉球紅型の型紙の外寸と名称および館蔵（大黒屋型）との比較」他（又吉光邦の論文）。授業で配布するプリント類。

沖縄の考古学

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

考古学は物質的資料を研究することによって、過去の人々の生活行動様式、変遷を研究する学問である。本講義では、沖縄および先島に展開した先史文化を周辺地域とも関連づけながら概観し、その特質を紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	考古学とはどんな学問か、考古学の研究方法
2	沖縄人はどこから来たか
3	南西諸島の旧石器遺跡
4	沖縄諸島の新石器時代
5	縄文土器の出現とその変遷
6	先史時代の交流と交易
7	先史・歴史時代における沖縄の住居跡
8	先史・原史時代人の食材と調理
9	グスク時代の社会と文化
10	グスク遺跡出土の最初の文字
11	発掘された琉球王国時代の首里城跡
12	沖縄の世界文化遺産の特質
13	先島諸島の先史、原史時代の社会と文化
14	沖縄の海底遺跡、遺跡見学、映像による補講等
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

3分の2以上出席すること。
遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

テストを行う。

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の自然 I

担当教員 渡久地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、主として生態学、地質学ならびに自然地理学（気候学・地形学）の観点から「亜熱帯地域」「島嶼地域」「サンゴ礁地域」としての沖縄の自然の成り立ち、特徴について考えることを目的とする。比較参照のために、類似の自然環境を示す奄美諸島・小笠原諸島なども取り上げることがある。

【授業の展開計画】

- 1 島弧－海溝系：琉球列島概観
- 2 亜熱帯の概念
- 3 沖縄の気候の特徴
- 4 季節変化、気候の地域差
- 5 日本の島、沖縄の島
- 6 高い島と低い島の自然環境の対比：地形・土壌・水
- 7 島の生物（1）：生物地理学の基礎
- 8 島の生物（2）：植生
- 9 サンゴ礁生態系（1）：褐虫藻の役割
- 10 サンゴ礁生態系（2）：造礁サンゴの生育条件と分布
- 11 サンゴ礁地形（1）：世界のサンゴ礁、沖縄のサンゴ礁
- 12 サンゴ礁地形（2）：環境条件と地形
- 13 隆起サンゴ礁の自然：カルスト地形
- 14 海浜地形：ヤンバル（沖縄島北部）を中心に
- 15 期末試験

【履修上の注意事項】

仮登録者の抽選条件：留学生、ハンディーキャップを持つ学生、4年次を優先する。

【評価方法】

授業への参加姿勢、宿題等、期末試験を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回2枚（4ページ）程度のプリントを配布する。

【参考文献】

池原貞雄・加藤祐三編『沖縄の自然を知る』（築地書館、1997）、目崎茂和『琉球弧をさぐる』（沖縄あき書房、1985）

沖縄の自然Ⅱ

担当教員 渡久地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、前期開設の「沖縄の自然Ⅰ」で取り上げた自然（亜熱帯気候・サンゴ礁・植生・島嶼）と人間とのかわり方を考えることを目的とする。比較のために、類似の自然環境を示す奄美諸島・小笠原諸島なども取り上げることがある。

【授業の展開計画】

- 1 気候と暮らし（1）：気象災害①
- 2 気候と暮らし（2）：気象災害②
- 3 気候と暮らし（3）：離島の水問題
- 4 サンゴ礁と人間（1）：資源利用からみたサンゴ礁の特徴
- 5 サンゴ礁と人間（2）：資源利用、漁撈活動
- 6 自然認識・民俗分類（1）：久高島漁民のサンゴ礁民俗分類
- 7 自然認識・民俗分類（2）：糸満漁民の海況認識
- 8 自然認識・民俗分類（3）：植物の利用と民俗分類
- 9 離島の自然と暮らし（1）：海によって隔絶した小社会
- 10 離島の自然と暮らし（2）：サンゴ島の農業を中心に
- 11 環境問題：景観破壊、緑地喪失、その他
- 12 自然と観光：エコツーリズムを中心に
- 13 自然と造形芸術（1）
- 14 自然と造形芸術（2）
- 15 期末試験

【履修上の注意事項】

前期開設の「沖縄の自然Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修してなくても受講できる。ただし、抽選となった場合は、前期開設の「沖縄の自然Ⅰ」履修生、4年次、留学生を優先する。

【評価方法】

授業への参加姿勢、宿題等、期末試験（100点満点）を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回2枚（4ページ）程度のプリントを配布する。

【参考文献】

サンゴ礁地域研究グループ編『熱い心の島』（古今書院、1992）、山崎道夫ほか編『沖縄の気象』（日本気象協会沖縄支部、1989）

沖縄の社会

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、私たちが自明だと思っている〈沖縄らしさ〉が比較的新しい出来事であることを確認していく。それとともに沖縄の社会の近代化による連続性と非連続性を社会学的視点で考察し、数百という銀河の連なりのようなシマ社会の現代における再構築を考察する。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス どこからどこまでが沖縄なのか？
2. はまうりとひなまつり
3. 歴史的思考と神話的思考
4. 基層文化としてのシマ社会
5. 観察するものを観察する
6. ナショナリズムと沖縄
7. ウチナーンチュの誕生
8. 連結都市圏の誕生と第二のシマ社会
9. コミュニティと地域再生
10. 沖縄における〈非時間性〉
11. 資本主義の精神と沖縄
12. 祈る対象の変換
13. 〈沖縄らしさ〉を問う
14. 第二のシマ社会とエイサー
15. 神話的時空の再現
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の受講の積み重ねが重要です。なお講義時に配付する資料は、次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

沖縄の宗教

担当教員 加治 順人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、沖縄で行われている様々な宗教的事象を取り上げ、それがいつごろ始まって、どのような目的で行われ我々の生活に関係しているのかを概説していきたい。前半は現在沖縄で行われ、信仰されている伝統的な信仰を取り上げ、後半は外国から入ってきた宗教について説明したい。

【授業の展開計画】

1週目	登録・講義内容の説明	8週目	沖縄の年中行事
2週目	沖縄固有の信仰(セヂとマブイ)	9週目	外来宗教(仏教)
3週目	沖縄固有の信仰(ユタ)	10週目	外来宗教(神社)
4週目	沖縄固有の信仰(ノロ)	11週目	外来宗教(道教)
5週目	沖縄固有の信仰(火の神)	12週目	外来宗教(キリスト教)
6週目	沖縄固有の信仰(位牌)	13週目	外来宗教(新宗教)
7週目	沖縄固有の信仰(御嶽信仰)	14週目	レポート提出

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する。

【評価方法】

試験は行わず、出席とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジュメを配布する。

【参考文献】

講義ごとにその都度紹介する。

沖縄の政治と法

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義のテーマは、沖縄の戦後史を詳しく辿りながら、現在の沖縄社会が背負っている諸問題が形成された歴史的な経緯を理解することにある。とくに、米軍基地が建設された過程やその背景を歴史的に把握することによって、沖縄の基地問題がどのような構造をもっているものなのかを認識する手がかりにしたい。それぞれの時期における政治状況・社会状況にも注目しながら、沖縄の戦後史における政治と法を学んでいくようにしたい。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要とねらい
- 2 沖縄戦と基地建設
- 3 基地の傍らで生活する人々
- 4 アメリカの沖縄統治政策
- 5 対日講和条約と沖縄
- 6 銃剣とブルドーザー
- 7 海兵隊の移駐と基地の拡張
- 8 高等弁務官の時代
- 9 ベトナム戦争と沖縄
- 10 沖縄復帰の内実
- 11 復帰後の軍用地問題
- 12 軍隊と性暴力
- 13 県知事の代理署名拒否
- 14 米軍再編計画と沖縄
- 15 暴かれた密約
- 16 学期末テスト

【履修上の注意事項】

抽選となった場合には、3・4年次を優先し、1・2年次を抽選とする。
歴史的経緯をふまえて今日の問題をより深く理解しようという意欲を持った学生の参加を希望する。

【評価方法】

学期末試験（70%）および参加姿勢（30%）によって評価する。参加姿勢については、講義内容に関する質問・感想用紙の提出を通して判断する。

【テキスト】

テキストは指定せず、必要な資料を講義の中で配布する。

【参考文献】

大城将保『昭和史のなかの沖縄』（岩波ブックレット）
宮城悦二郎『沖縄占領の27年間』（岩波ブックレット）

沖縄の地理

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

琉球列島や沖縄本島をはじめとする、亜熱帯地域「沖縄」における自然環境と人々の生活、文化、産業などについて、地理学の立場からアプローチを行う。講義は郷土「沖縄」が理解しやすいように、パワーポインターやVTRなどの映像資料を活用しながらやさしく行う予定である。

【授業の展開計画】

1. 沖縄の地理的位置とその概観
2. 沖縄の自然環境-地形と土壌
3. 沖縄の気候
4. 沖縄の農業
5. 沖縄の鉱工業
6. 沖縄の水産業
6. 沖縄の商業と交通
7. 沖縄の都市地域
8. 沖縄の村落地域
9. 沖縄の人口移動と移民
10. 離島地域の自然と人々の暮らし(宮古島)
11. 離島地域の自然と人々の暮らし(八重山)
13. 沖縄の地名と集落
14. 沖縄の基地問題
15. これからの沖縄

【履修上の注意事項】

沖縄の地図を用意すること(市販のものでかまわない)。

【評価方法】

出席状況(講義回数分の1/3以下は単位不可)と数回のレポート提出で総合的に判断する。

【テキスト】

とくになし。

【参考文献】

仲田邦彦(2009)沖縄県の地理、編集工房東洋企画。
中山満, 堂前亮(1983)沖縄の地理 島の自然と生活

沖縄の地理

担当教員 -上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄の美術

担当教員 花城 郁子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球王国、沖縄の近・現代美術を通して、外部からの影響により内になる気づきがどのように表現されたかを、美術作品を通して学ぶ。リアクション・ペーパーを描く・書くことで、自身の表現力を問うと共に沖縄の文化を創造・継承していくのは自分たちである意識を高め、沖縄で表現する意味を考える場とする。

【授業の展開計画】

- 1: ガイダンス
- 2: 琉球王朝時代の絵画—国家貿易・贈答品としての鑑賞絵画
- 3: 琉球王朝時代の絵画—王の影・御後絵
- 4: 王権の証、ムラの守り神、工芸と民芸としてのシーサー
- 5: 沖縄の建築
- 6: 戦前の画家達—名渡山愛順と大嶺政寛（沖縄を背負う）
- 7: 戦争は画家をどう変えたか—美術村「ニシムイ」
- 8: 沖縄県立博物館・美術館建設の歴史
- 9: 作品鑑賞（学外。展示期間により、日程が前後する場合がある）
- 10: 沖縄の精神文化、色と形—岡村吉右衛門の眼差し
- 11: 岡本太郎が観た沖縄—沖縄文化論より
- 12: 作品鑑賞法-1
- 13: 作品鑑賞法-2
- 14: 作品鑑賞法-3
- 15: まとめ
- 16: テスト形式のレポート

【履修上の注意事項】

私語、雑談、遅刻禁止。美術に興味を持ち、表現とは何かを考え、理解しようという意欲を持った学生の参加を希望。毎講義では小演習としてリアクションペーパーを書く、描く。
各自準備するもの：色鉛筆、マーカー、ハサミ、ノリ、セロテープなど。
美術館や画廊などの展示により、「作品鑑賞」の日程が前後する可能性がある。

【評価方法】

リアクション・ペーパーと試験で総合的に評価。

【テキスト】

適宜に配布。

【参考文献】

美術館、画廊、野外展示など美術作品展示空間に行き作品鑑賞、及び映画やテレビなどの美術関係の番組鑑賞。

沖縄の文学

担当教員 大城 學

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の文学のなかで沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島の古代文学を対象にします。3諸島の呪術文学・叙事文学・抒情文学のなかから、具体的に歌謡（民謡）の歌詞、歌唱法、歌われる状況などについて取りあげ、歌謡の実態を把握します。歌謡をより深く理解するために、視聴覚資料を駆使して歌謡そのものを聴いたり、歌っている状況（歌唱者、楽器の使用等々）や歌われている場を確認し、鑑賞します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄の古代文学概説①
2	沖縄の古代文学概説②
3	沖縄諸島の呪術文学（ミセセル、オタカベ）
4	宮古諸島の呪術文学（ニーリ、フサ）
5	八重山諸島の呪術文学（カンフチ、ニガイフチ）
6	沖縄諸島の叙事文学①（キューナ）
7	沖縄諸島の叙事文学②（ティルル）
8	宮古諸島の叙事文学（長アーク、クイチャーアーク）
9	八重山諸島の叙事文学（アヨー、ジラバ、ユンタ、ユングトゥ）
10	沖縄諸島の抒情文学（琉歌①）
11	沖縄諸島の抒情文学（琉歌②）
12	沖縄諸島の抒情文学（口説①）
13	沖縄諸島の抒情文学（口説②）
14	宮古諸島の抒情文学（三線と歌謡の関わり）
15	八重山諸島の抒情文学（節歌）
16	

【履修上の注意事項】

沖縄の文化（民謡、芸能、祭祀等）に関心をもってください。

【評価方法】

出席、試験を総合的に評価します。わけても出席を重視します。

【テキスト】

検討中。適宜歌謡資料を配布します。

【参考文献】

『沖縄芸能史概論』大城 學著（砂子屋書房）
『沖縄の歴史と文化』外間守善著（中央公論社）

沖縄の民俗

担当教員 萩尾 俊章

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の民俗文化について概説する。伝統的村落・住居、家族・親族、祭祀と行事、人生儀礼と墓、食文化、物質文化、民間信仰といった民俗事象を主たるテーマとして取り上げる。日本をはじめ中国や韓国など周辺諸文化との比較文化的な視点から、沖縄の民俗をとらえなおす。近隣地域の民俗巡検をおこない、スライドやビデオも活用する。

本講義を通じて、自分の出身地や住んでいる地域の社会や文化を見つめ直す機会とする。

【授業の展開計画】

- 1 民俗学とは
- 2 沖縄の村落と御嶽
- 3 住居と屋敷空間
- 4 宜野湾市内の集落民俗巡検
- 5 沖縄の地名と姓名
- 6 家と門中・家譜
- 7 沖縄の食文化の特徴
- 8 葬制と墓
- 9 暦と年中行事
- 10 沖縄の祭祀行事①
- 11 沖縄の祭祀行事②
- 12 沖縄の物質文化
- 13 民間信仰と霊の世界
- 14 シャーマニズムとユタ
- 15 沖縄の民俗世界(まとめ)

【履修上の注意事項】

講義中の私語は慎むこと。

【評価方法】

出席状況、課題・試験等を総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし。適宜、参考資料を配付する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

沖縄の民俗

担当教員 波平 エリ子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の民俗文化について考察する。伝統的村落・生業・家族・親族といった民俗事象を主たるテーマとして取り上げる。また時間の許すかぎり周辺諸文化との類縁性についても触れ、スライドやビデオも活用したい。

【授業の展開計画】

1. 沖縄の村落
2. 家族・親族
3. 祖先祭祀・位牌継承
4. 霊的職能者としてのユタ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

主に出席と期末テストの総合評価。

【テキスト】

『おきなわ軽便鉄道マップ』（おきなわ散策はんじゃ会編）ボーダーインク2008年

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

沖縄の民俗

担当教員 城間義勝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

民俗とは、私たちの暮らしのなかで親から子へ、祖父母から孫に伝えられる伝統的な風習（ならわし・しきたり）のことをいいます。それらは口伝で傳承され、受け継がれていくものです。

本講義では、自分が住んでいる地域や家族との関係を見つめ直しながら、沖縄の民俗事象を考えます。また、「沖縄」という地理的・歴史的な背景との関わりも大切にしていきたいと思ひます。

【授業の展開計画】

- 1 週目 講義内容説明
- 2 週目 民俗学と沖縄研究
- 3 週目 村落①（シマ）
- 4 週目 村落②（聖地）
- 5 週目 家・屋敷
- 6 週目 年中行事①
- 7 週目 年中行事②
- 8 週目 年中行事（綱引き）
- 9 週目 ビデオ
- 10 週目 人生儀礼
- 11 週目 家族
- 12 週目 シマを歩く①
- 13 週目 シマを歩く②
- 14 週目 沖縄の来訪神
- 15 週目 まとめ
- 16 週目 まとめ

講義終了時にレポートを提出。

- ・ 14回ある講義の中で、興味を持ったテーマを1つ取り上げ、レポートを作成する。
- ・ 選んだテーマに関して、必ず親・祖父母・地域のお年寄りから話を聞く。
- ・ 他府県出身の生徒や留学生は、出身地の行事と沖縄の行事を比較してもよい。
- ・ パソコン書き（手書き不可） A4サイズ2～3枚ほど（上限なし）。

レポート項目 ①学部・学科・学籍番号・名前 ②テーマ ③選んだ理由
④報告（聞き取りしたこと） ⑤まとめ（感想・これからの発展）⑥参考文献

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況。講義終了時にレポートを提出。

【テキスト】

テキストはなし。講義毎にレジュメを配布する。

【参考文献】

参考図書は講義毎に随時、紹介する。

沖縄の民俗

担当教員 儀間 淳一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄では現在でも先人たちから受け継がれてきた行事や習俗に接する機会が多いが、それと同時に今では見ることのできない習俗も少なくない。

本講義では、このような行事や習俗、日々の暮らしを支える生業などについて身近な事例とともに映像等を活用しながら紹介し、これらの由来や変遷、特徴などについて考える。

本講義をきっかけに出身地や住んでいる地域など自分の足もとを見つめ直してほしい。

【授業の展開計画】

1 週目	民俗とは	9 週目	祖先崇拜
2 週目	沖縄の村落①（地理的環境）	10 週目	ユタ
3 週目	沖縄の村落②（社会と経済）	11 週目	外来の信仰①
4 週目	沖縄の村落③（信仰と祭祀組織）	12 週目	外来の信仰②
5 週目	年中行事①	13 週目	仕事と暮らし①
6 週目	年中行事②	14 週目	仕事と暮らし②
7 週目	ひとの一生②	15 週目	仕事と暮らし③
8 週目	ひとの一生①		

【履修上の注意事項】

私語は慎む。講義中むやみに教室を出入りしない。

【評価方法】

出席状況、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

講義で随時紹介する。

沖縄の民話

担当教員 禰 晴一郎

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の民話について幅広く学ぶ。

【授業の展開計画】

1. 「沖縄の民話」概要、前期講義概要の説明
2. 民話研究の歴史、民話と伝承話、分類
3. 神話 I
4. 神話 II
5. 伝説 I
6. 伝説 II
7. 昔話 I
8. 昔話 II
9. 昔話 III
10. 昔話 IV
11. 動物昔話 I
12. 動物昔話 II
13. 笑い話 I
14. 笑い話 II
15. 民話の活用
16. まとめ、レポート提出

【履修上の注意事項】

日本文化学科の学生は、この講義ではなく後期の口承文芸学の講義の方を受けてもらいたい。

【評価方法】

出席状況（欠席5回の時点で単位は認められない）また、欠席数により減点します。
レポート提出

【テキスト】

特になし。資料は講義ごとに配布する。

【参考文献】

沖縄の歴史 I

担当教員 田名 真之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の前近代史(古琉球から琉球処分期まで)について学習する。通史と個別テーマで古琉球と近世琉球の歴史と文化について、中国、日本など対外関係も視野に入れながら考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1. 総論・講義の概要
2	2. 初期王統一舜天・英祖・察度各王統の系譜
3	3. 古琉球王国の成立ー尚巴志の三山統一 第一尚氏政権
4	4. 古琉球王国の展開ー尚円・尚真の時代 第二尚氏政権
5	5. 大交易時代Ⅰー中国冊封体制と琉球
6	6. 大交易時代Ⅱー海外交易の展開ー日本・朝鮮・東南アジア
7	7. 島津侵入Ⅰーその背景と侵攻の様相
8	8. 島津侵入Ⅱー島津の支配と石高制
9	9. 羽地朝秀と「羽地仕置」ー古琉球から近世琉球へ
10	10. 蔡温の国づくりー近世琉球の確立
11	11. 冊封と冊封使録
12	12. 江戸上りー幕藩体制下の異国琉球
13	13. 近世の中国貿易
14	14. 外艦渡来ーバジル・ホール、ベッテルハイム、ペリー
15	15. 琉球処分ー琉球王国の滅亡
16	テスト

【履修上の注意事項】

遅刻しないこと。質問は積極的に。

【評価方法】

試験の成績を基本に出席状況を加味して評価

【テキスト】

講義でプリント配布。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介

沖縄の歴史 I

担当教員 新城 俊昭

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の歴史を学ぶ目的は、単に祖先の歩んできた足跡を知ることだけにとどまらない。抽象的・一般的な概念でまとめられた歴史像に、地域のより具体的に掘り下げられた歴史事象を照らしあわせることによって歴史の本質にせまるといふ、歴史観を培ううえでのもっとも重要な役割をも担っているのである。本講座では、琉球・沖縄の歴史から先人の経験を学ぶとともに、日本、アジア、そして世界の歴史をみる目を養っていきたいと考えている。

【授業の展開計画】

旧石器時代から琉球王国崩壊までの沖縄の歴史と文化を、歴史的な出来事だけでなくヒト・モノにも焦点をあてながら学ぶ。毎時間テーマに沿って学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培い、沖縄人としてのアイデンティティの確立を図る。

週	授 業 の 内 容
1	沖縄人(ウチナーンチュ)はどこから来たか～旧石器時代のアジア・日本・沖縄を概観する。
2	貝塚は何を語っているか～沖縄貝塚文化の特徴と縄文・弥生文化との関係。
3	グスクはどのように誕生したか～按司と三山時代の形成。
4	琉球王国の誕生～尚巴志による三山統一。明との冊封・朝貢関係と王国の構造。
5	第二尚氏王統の誕生と琉球の繁栄～金丸のクーデター。尚真の中央集権政策。
6	琉球の大交易時代～東アジア・東南アジアを股にかけた琉球の大交易がもたらしたもの。
7	島津はなぜ琉球を侵略したか～幕府・薩摩と琉球の関係。その後の琉球と中国の関係。
8	薩摩の侵略で琉球はどう変わったか～琉球の検地と奄美諸島の分割。江戸使節の意義。
9	近世琉球の政治体制～羽時朝秀の政治改革。蔡温の政策。
10	薩摩支配下の進貢貿易～赤字に悩む進貢貿易。
11	農村の実態～土地制度と税制。農務帳に見る農村社会。
12	宮古・八重山の統治～人頭税は過酷な税制か。乾隆36年の大津波がもたらした影響。
13	琉球文化の特徴～イモの伝来と産業、近世の交通網、学問と文学の発達、美術工芸、芸能の発達
14	欧米船の来航～フランスの開国要求。ペリーの来航。通事・牧志朝忠にみる王国末期の琉球
15	沖縄の歴史と文化のまとめ～沖縄歴史検定なども利用
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

毎回のテーマの進捗状況によっては、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

課題（レポート形式で3～5回程度）と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から数点論述させる。配分は課題4割、テスト6割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）。『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著（沖縄学販発行）。他（プリントで配布または毎時間授業で紹介）

【参考文献】

『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著（沖縄学販発行）。他（プリントで配布または毎時間授業で紹介）

沖縄の歴史 I

担当教員 恩河 尚

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前近代（先史時代から江戸時代）の沖縄歴史をⅠ・Ⅱを通して通史的に概観する。その際、日本史や東アジア史の動向も意識しながら、その中で沖縄という地域をどう位置づけていけばよいのか留意したい。また、教師の一方的な話にならないよう、努めて学生さんたちとキャッチボールしながら（彼らの疑問点等の把握）、講義を進めていきたい。そうすることによって、たとえば「首里城」であれば、学生さん自身で「首里城」を案内できるようなレベルに目標を設置し、たえず実践的な意味づけをしながら授業を展開していきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄の歴史概観
2	沖縄の歴史概観
3	沖縄の歴史概観
4	グスク時代と古琉球
5	グスク時代と古琉球
6	大交易時代と古琉球
7	大交易時代と古琉球
8	進貢貿易と大交易時代
9	進貢貿易と大交易時代
10	向象賢（羽路朝秀）と蔡温
11	向象賢（羽路朝秀）と蔡温
12	薩摩侵入
13	薩摩侵入
14	薩摩侵入の歴史的意義
15	薩摩侵入の歴史的意義
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

沖縄の歴史ⅠとⅡを通史的に行っているので、Ⅱの履修はなるべくⅠの履修者が望ましい。また履修の条件は、雑談・私語の厳禁、これ以外はなし。

【評価方法】

成績評価の方法はレポートとテストで行います。

【テキスト】

適当なテキストがないため、前述した授業の展開計画に沿って、その都度レジュメを作成・配布します。

【参考文献】

参考文献は、レジュメの最後に掲載します。

沖縄の歴史Ⅱ

担当教員 恩河 尚

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前近代（先史時代から江戸時代）の沖縄歴史をⅠ・Ⅱを通して通史的に概観する。その際、日本史や東アジア史の動向も意識しながら、その中で沖縄という地域をどう位置づけていけばよいのか留意したい。また、教師の一方的な話にならないよう、努めて学生さんたちとキャッチボールしながら（彼らの疑問点等の把握）、講義を進めていきたい。そうすることによって、たとえば「首里城」であれば、学生さん自身で「首里城」を案内できるようなレベルに目標を設置し、たえず実践的な意味づけをしながら授業を展開していきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	間切と村
2	間切と村
3	沖縄人の姓名について
4	沖縄人の姓名について
5	沖縄人の姓名について
6	首里城と東アジア社会
7	首里城と東アジア社会
8	首里城と東アジア社会
9	家譜の編集
10	家譜の編集
11	沖縄の道Ⅰ
12	沖縄の道Ⅰ
13	沖縄の道Ⅱ
14	近代沖縄の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）
15	近代沖縄の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

沖縄の歴史ⅠとⅡを通史的に行っているので、Ⅱの履修はなるべくⅠの履修者が望ましい。また履修の条件は、雑談・私語の厳禁、これ以外はなし。

【評価方法】

成績評価の方法はレポートとテストで行います。

【テキスト】

適当なテキストがないため、前述した授業の展開計画に沿って、その都度レジュメを作成・配布します。

【参考文献】

参考文献は、レジュメの最後に掲載します。

沖縄の歴史Ⅱ

担当教員 新城 俊昭

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の歴史を学ぶ目的は、単に祖先の歩んできた足跡を知ることだけにとどまらない。抽象的・一般的な概念でまとめられた歴史像に、地域のより具体的に掘り下げられた歴史事象を照らしあわせることによって歴史の本質にせまるという、歴史観を培ううえでのもっとも重要な役割をも担っているのである。本講座では、琉球・沖縄の歴史から先人の経験を学ぶとともに、日本、アジア、そして世界の歴史をみる目を養っていきたいと考えている。

【授業の展開計画】

琉球王国の崩壊から現代までの沖縄の歴史と文化を、歴史的な出来事だけでなくヒト・モノにも焦点をあてながら学ぶ。毎時間テーマに沿って学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培い、沖縄人としてのアイデンティティの確立を図る。

週	授 業 の 内 容
1	琉球王国はどのように解体されたか～廃琉置県(琉球処分)。分島増約問題
2	沖縄県民は世替わりをどのように受け止めたか～旧慣温存策と沖縄県政
3	沖縄の民衆はどのように権利を獲得したか～人頭税廃止運動。謝花昇と民権運動
4	ソテツ地獄とはどのような社会状況か～大戦景気とソテツ地獄。海外移民と出稼ぎ
5	十五年戦争はどのように始まったか～沖縄の皇民化政策。軍国主義の台頭と沖縄
6	日本はなぜ戦争を拡大させたか～戦時体制と県民の暮らし。標準語励行運動がもたらしたもの
7	日本はなぜアメリカと戦争をはじめたか～アジア太平洋戦争の勃発。沖縄と軍国主義教育
8	沖縄戦はなぜおこったか～軍事基地としての沖縄の役割。沖縄戦前夜(対馬丸事件・十空襲)
9	沖縄戦から何を学ぶか～住民犠牲の特徴。強制集団死の実態(ヒビチガマとシカマ)
10	戦後の焼け跡から沖縄はどのように立ち上がったか～収容所から始まった戦後。米軍支配の実態
11	島ぐるみ闘争はなぜおこったか～軍用地の強制接収と島ぐるみ闘争。琉球政府の創設
12	沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだか～基地被害の実態。ベトナム戦争と沖縄。祖国復帰運動
13	日本復帰で沖縄の何が変わったか～新生沖縄県。復帰三大事業と交通方法の変更。密約を暴く
14	21世紀の沖縄はどこへ向かおうとしているのか～復帰後の保革県政。現代の課題と基地問題
15	琉球・沖縄の歴史と文化のまとめ～沖縄歴史検定などを利用
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

毎回のテーマの進捗状況によっては、扱うテーマを多少変更する場合もある

【評価方法】

課題(レポート形式で3～5回程度)と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から数点論述させる。配分は課題4割、テスト6割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著(編集工房東洋企画発行)。『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著(沖縄学販発行)。他(プリントで配布または毎時間授業で紹介)

【参考文献】

『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著(沖縄学販発行)。他(プリントで配布または毎時間授業で紹介)

沖縄の歴史Ⅲ

担当教員 新城 俊昭

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の歴史を学ぶ目的は、単に祖先の歩んできた足跡を知ることだけにとどまらない。抽象的・一般的な概念でまとめられた歴史像に、地域のより具体的に掘り下げられた歴史事象を照らしあわせることによって歴史の本質にせまるという、歴史観を培ううえでのもっとも重要な役割をも担っているのである。本講座では、琉球・沖縄の歴史から先人の経験を学ぶとともに、日本、アジア、そして世界の歴史をみる目を養っていきたいと考えている。

【授業の展開計画】

旧石器時代から現代までの沖縄の歴史と文化を、歴史的な出来事だけでなくヒト・モノにも焦点をあてながら学ぶ。毎時間テーマに沿って学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培い、沖縄人としてのアイデンティティの確立を図る。

週	授 業 の 内 容
1	沖縄人(ウチナーンチュ)はどこから来たのか～旧石器時代のアジア・日本・沖縄を概観する。
2	琉球王国の成立～沖縄先史文化の形成から、三山統一までの歴史を概観する。
3	世界遺産～世界遺産から琉球文化を概観する。
4	薩摩の侵略～近世琉球の政治構造と文化について学習する。
5	非武の文化～琉球使節と組踊について学習する。
6	琉球文学～黄金言葉・琉歌に見る沖縄人の精神構造を探求する。
7	近世琉球の王国体制～羽地朝秀、蔡温にみる政治改革について学習する。
8	近代の波～欧米人の見た近世琉球の姿について学習する。
9	廃琉置県(琉球処分)～王国崩壊から沖縄県(ヤマトユ)への世替わりについて学習する。
10	近代沖縄 1～伊波普猷と沖縄学について学習する。
11	近代沖縄 2～皇民化教育と方言論争から近代沖縄人(ウチナーンチュ)の精神構造を探求する。
12	十五年戦争と沖縄戦～十五年戦争の視点から沖縄戦を学ぶ意義と平和教育の方法について学習する。
13	「祖国復帰運動」～米軍支配下にみる沖縄アイデンティティを探求する。
14	現代沖縄～現在の社会状況から沖縄の抱える課題を考える。
15	沖縄の歴史と文化のまとめ～沖縄歴史検定なども利用。
16	学期末試験。

【履修上の注意事項】

沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱを履修していなくても受講することができる。毎回のテーマの進捗状況によっては、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

課題(レポート形式で3～5回程度)と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から数点論述させる。配分は課題4割、テスト6割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著(編集工房東洋企画発行)

【参考文献】

『琉球・沖縄 歴史人物伝』新城俊昭著(沖縄学販発行)。他(プリントで配布または毎時間授業で紹介)

沖縄の歴史Ⅲ

担当教員 深澤 秋人

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、主に12世紀から19世紀にいたる前近代の琉球社会の歴史を考えます。琉球史の時代区分では、古琉球、近世琉球とされている時期に相当します。

講義のねらいは、前近代における琉球社会の歴史の特質に触れるとともに、現在の沖縄社会で生活する私たちが琉球・沖縄の歴史を学ぶ意味を考えるとところにあります。私たちが自明のものとしがちな「琉球」を相対化して考えるための視点を身につけることが到達目標です。

【授業の展開計画】

琉球・沖縄の歴史は首里城を中心とした琉球王国史だけではありません。琉球社会の歴史、奄美・久米島・宮古・八重山の島々と沖縄の交流史など様々な視角が設定できます。沖縄県内の地域史（市町村史）づくりに関わった経験を活かし、現在、沖縄国際大学のキャンパスとなっている土地は、18世紀の人びとにどのように利用されていたのか（10回目）など、できるだけ地域の表情が見えてくるような講義をしたいと思っています。

- 1) 沖縄に関連する問題をクイズ形式で考え、琉球の歴史社会を考える準備をします。
- 2) 奄美諸島から八重山諸島にいたる島々の先史時代の社会の様子を考えます。
- 3) 琉球文化圏が形成されたグスク時代の特徴や沖縄島での小国家形成を考えます。
- 4) 14世紀の国際環境の変化が琉球の国家形成に与えた影響を考えます。
- 5) 15世紀における第1尚氏政権と奄美大島や喜界島との関係を考えます。
- 6) 16世紀における第2尚氏政権と石垣島など島嶼部との関係を考えます。
- 7) 薩摩藩の琉球支配とともに、近世の琉球王国のありかたについて考えます。
- 8) 近世の琉球王権のありかたを国王の肖像画や一連の即位儀礼から考えます。
- 9) 近世の琉球社会における身分・職業・階層の関係について考えます。
- 10) 黒砂糖・上布・紬などの特産物が琉球の島々でどのように生産されたのかを考えます。
- 11) 民衆の抵抗のありかた（逃げる、さぼる、盗む）から近世の琉球社会を再検討します。
- 12) 19世紀中頃における欧米船の来航と首里王府の対応、琉球社会との関係を考えます。
- 13) 明治政府によって琉球が併合され、沖縄県が設置されるまでの経緯を考えます。
- 14) 先史時代から現在にいたる琉球・沖縄の歴史の流れを振り返ります。
- 15) 期末試験

【履修上の注意事項】

まず、沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱを受講していなくても、この講義を受講することにまったく問題はありません。安心して教室に来てください。この講義で問われるのは暗記力ではありません。好奇心と着眼点です。覚えるのではなく、疑問点を見つけて考えようとしてください。しかし、漫然と出席しては自分で疑問点を見つけることはできません。一つでも多くの「発見」をすることを意識してください。

【評価方法】

基本的には期末試験の結果で評価します。試験問題は記述問題（50点配点、15問×3点、1問×5点）と論述問題（50点配点）です。配布したレジュメや自分のノートなど何を見ても構いません。ほかにも講義に参加する姿勢や意欲を重視します。場合によっては加点・減点することがあります。

【テキスト】

指定はありません。毎回、レジュメと図版などの参考資料を配布します。

【参考文献】

豊見山和行編『〈日本の時代史18〉琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館、2003年）、ほかにも琉球史の通史やシリーズものは1回目の講義で紹介します。

沖縄の歴史Ⅲ

担当教員 伊敷 勝美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近現代の沖縄研究を学ぶうえでの基礎的な学習を行います。明治初期から日本復帰前後までを扱い、その時代の地域の動きや住民に焦点をあてていきます。時に講義のテーマのアウトラインをつかむため、新聞資料や映像資料等も使います。ダイナミックさと豊かさ、そして個性をもつ沖縄歴史の「見方」をさまざまな側面から捉えることができればと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	廃藩置県前夜の沖縄
2	近代の諸改革と住民
3	移民①－沖縄からの戦前移民
4	移民②－国策移民
5	出稼ぎと金の卵（戦前）
6	沖縄戦への道
7	戦後引き揚げ①
8	戦後引き揚げ②
9	戦後復興と基地建設
10	都市の建設と特飲街
11	エイサーと伝統
12	コザ「暴動」と住民
13	基地と毒ガス移送と住民
14	復帰前後の沖縄政策
15	復帰後の生活と住民
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポートと試験の総合点に、出席状況を勘案して評価をします。

【テキスト】

毎回、講義資料を配布します。

【参考文献】

参考文献は、講義のなかで適宜紹介します。